

今を生きる、最高の瞬間。

WILD SOUL

極北の生命

前川貴行写真展

TAKAYUKI
MAEKAWA

平成22年6月19日(土) / 平成22年8月29日(日)

【主催】財団法人高岡市民文化振興事業団 ミュゼふくおかカメラ館 【共催】高岡市・高岡市教育委員会・北日本新聞社・北日本放送・北陸朝日放送
【後援】株式会社小学館 【協力】キヤノンマーケティングジャパン株式会社 サンディスク株式会社
【入館料】一般6000円 / 大学生・高校生3000円 / 中学生・小学生1000円 ※20名以上の団体は2割引 ※土・日・祝日は高校生以下無料
【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 【休館日】月曜日(7/19除く)、7/20



前川貴行写真展

平成22年6月19日(土)～平成22年8月29日(日)

WILD SOUL 極北の生命

クマに魅せられてアラスカやカナダの極地を旅するようになり、様々な動物たちの営みや原始の風景を見つめてきた。そうした時を重ねるなかで、いつしかハクトウワシの存在が僕のなかで膨らみ、その風貌に強固な意志を秘めたようなこの鳥を、本格的に追いかけてみようと思うようになった。アメリカのシンボルでもあるこの鳥は、1960年代には絶滅の危機に瀕していた。家畜を襲う害獣として長年に渡って乱獲されてきた事と、農薬汚染の影響による卵殻の薄膜化などによって、ヒナがかえらなくなった事が大きな原因とされた。ハクトウワシを狩った者に、懸賞金が出された時代さえあったのだ。

現在、ホッキョクグマを取り巻く環境悪化を象徴とする地球温暖化は、何億年も繰り返してきた地球の自然なサイクルかもしれないが、全世界規模の人為的な問題として、人類の団結した対策が必須であるのは周知の通りだ。かつて、ハクトウワシが絶滅の危機に瀕していたのは、北米という広範囲でありながらも限定された地域内での環境問題や、人的被害によるものだった。それが近年では、本格的な保護法の制定と農薬の規制、身近な環境問題の改善に取り組んだおかげで、その個体数を飛躍的に戻し、絶滅危惧種の指定からも解除された。これは現代の環境問題に対する考え方のモデルケースとなりえる好例で、これらの発想を世界規模に広げていくことが、ひいてはホッキョクグマの生息環境を守り、絶滅へと向かう動植物を一つでも救う手段になり得るのではないかと思う。

でも僕が動物たちにレンズを向けるとき、このような考えは頭の中からほぼ消え去ってしまう。対峙した命の営み、今生きている最高の瞬間をワカッと凝縮し、四角いフレームから限りない想像が広がっていく。そんないい写真になるように、ファインダーの中で極限までせめぎ合い、試行錯誤を繰り返すだけである。

文・前川貴行

今回、ハクトウワシを中心とした極北の生き物たちと、壮大で美しい風景を交え、動物写真家前川貴行による迫力の世界をお届けします。彼の作品から伝わる生命の輝き——力強さやもろさ、たくましさや優しさは、私たちのイメージを地球規模へと膨らませ、やがて大きな感動となって新たな写真世界の魅力へと導きます。

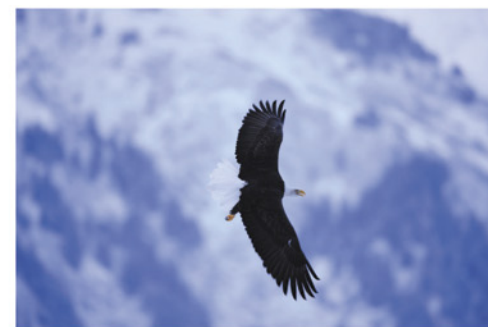
前川貴行 ギャラリートーク

①6/19(土)10:00～、14:00～
②8/8(日)14:00～

前川貴行 まえかわたかゆき / 動物写真家

1969年2月24日東京都生まれ。私立和光高等学校卒業後、エンジニアとしてコンピュータ関連企業に勤務。26歳の頃より写真を独学ではじめ、97年より動物写真家・田中光常氏の助手をつとめる。2000年よりフリーの動物写真家として活動を開始、日本、カナダ、アラスカを主なフィールドとして内外の野生動物の世界と風景をテーマに撮影に取り組み、カメラ雑誌、総合誌のグラビアなどに作品と文章を発表。2008年日本写真協会賞新人賞受賞。(社)日本写真協会会員。

<http://www.earthfinder.jp/>



▼交通のご案内



- 開館時間 / 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 月曜日(7/19除く)、7/20
- 入館料 / 一般600円、大・高300円、中・小100円
※20名以上の団体は2割引 ※土・日・祝日は高校生以下無料

(財) 高岡市民文化振興事業団

ミュージアム ぶくおか カメラ館

FUKUOKA CAMERA MUSEUM

〒939-0117 富山県高岡市福岡町福岡新559
TEL 0766-64-0550 FAX 0766-64-0551
<http://www.cameran.com>